

1995年(平成7年) 7月  
創刊号

# きぼう

この子等の幸せを考える親の会

事務局  
〒494 尾西市富田字漆畑16番地  
TEL/FAX: 0586-61-6055  
編集責任者: 広報・研修事業部

## 会報発刊のご挨拶

「この子等の幸せを考える親の会」会長 小塚 清

「この子等の幸せを考える親の会」も第15回の総会を迎えることが出来ました。これもひとえに、行政当局のご指導・ご支援並びに会員の皆様方の格別のご協力の賜物と存じ厚くお礼申し上げます。

当初は何をするにも経験がなくいきあたりばったりの行事を致してまいりました。最近では会員も次第に増加致し、尾西市を中心に一宮市、稲沢市、祖父江町、木曾川町、平和町の6市町で100名近くになりました。

保護者の老齢化にともない、親亡き後の障害者の生活の場所の必要性が真剣に叫ばれるようになりました。その実現に対し会の組織を改善・充実させたいことになり、広報・研修、収益事業、リクレーションの3事業部会制を採用、発足に至りました。これにともない広報を発行し、長、中、短期的な行事計画等の発表をすると共に、会員の皆様方の御意見、御希望の発表の場と致したく存じます。会員の皆様方の一層のご協力をお願い致し広報発刊のご挨拶と致します。



去る4月29日、第十五回総会が開かれる。  
尾西市文化会館にて。



## あいさつ

尾西市長 森 秀夫

このたび、「この子等の幸せを考える親の会」の機関誌『きぼう』が創刊されますことは、誠に喜ばしいことと存じます。

会員の皆様におかれましては、日頃から心身障害児(者)に関わる福祉行政に対して、いろいろなご助言・ご協力をいただき、深く感謝いたしているところであります。

また、地域の精神薄弱者の授産、更生施設を運営する社会福祉法人「樫の木福祉会」を発足当時から物心両面にわたって支えられ、樫の木作業所、樫の木園とその内容が広がってまいりましたのも、小塚会長を中心とした会員の皆様のご努力の結果であると心から敬意を表します。

障害者を抱える保護者のかたがたには、私たちの計り知ることができない数々のご苦勞があることと思いますが、そうしたかたがたの心の拠り所として、貴会の役割は会員の皆様自身が一番よくご承知のことと存じます。高齢社会を迎え、老人保健福祉計画に基づき、施策の充実が叫ばれております中で、障害者やその保護者の高齢化対策も考えねばならない時代になってまいりました。

市といたしましては、今後も「心豊かなふれあいのまち」を築くため、福祉全体の充実に努力する所存であり、貴会のご要望にもできる限りお応えできるように努力したいと考えております。

どうか、親睦をより一層深められ、今後の皆様のご健康を祈念いたしますと同時に、福祉行政についてご協力を賜りますようお願いいたします。

## 「きぼう」創刊によせて



この子等の幸せを考える親の会  
顧問 岡田 春雄

「この子等の幸せを考える親の会」（以下「親の会」と称す）が昭和56年に発足されてから今年で15年を迎え、更に機関誌「きぼう」がこの度創刊されるはこびとなりまして、心からお祝いを申し上げます。

尾西市を中心とした地域に在住の心身に障害を持つ子供達の親御さん方は、「この子等」のかけがえのない人生の幸せを願って、共に手を携えてゆくために「親の会」を組織されました。

私も、このような「親の会」の趣旨に賛同し、会の運営や活動に対する相談役として顧問を務めさせて頂き、今年で15年目となりました。

「親の会」の発足当時は会員も40名そこそこでしたが、現在では90名を越える会員数となり、また今年からは新たな試みとして会の運営の組織の見直しが行われるとの事で、ますます「親の会」も充実してきたようです。

さて、私は昭和35年に尾西市議会議員に初当選して以来、35年間市政と共に歩んで参りましたが、今から思えば、障害を持つ子供さんを抱えて一所懸命になってみえる親御さんとの出会いは、わたくしをして政治家たらしめる強い原動力であったと申せましょう。

現在、わが国の経済状況は、長引く不況や国際的な円高傾向により、慢性的な不景気が横行致しており、中小企業のみならず大企業も大きな痛手を負っておりますかような状況の中では、社会福祉の充実もとても難しいところではあります

そうした時にこそ地域として福祉の大切さを見直すことが必要ではないでしょうか

私は、さしあたり尾西市の将来というものは、経済社会の建て直しとともに市民憲章にも明言されていますように、市民ひとりひとりが尾西市を愛し、自然を大切に、お年寄りや青少年や障害者の人たちが住みやすいようにみんなで支え合っていくことが肝要であると考えます。

そして、これからの「親の会」は、こうした市民の思いやりの心、愛する心を培ってゆくために自助努力を惜しまず、これからもより一層の活動を推進して行かねばなりませんでしょう。

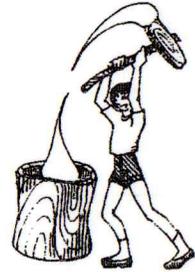
最後に、「親の会」のこの機関誌が尾西市に住む人々の「世のひかり」となり、心身障害児（者）を抱える親御さんの心の支えとなりますことを祈念いたしまして私のご挨拶とさせていただきます。

## リクレーション事業部会

「この子等の幸せを考える親の会」の会員さんの親睦を深めるリクレーション部の会員さんは36名です。事業部の理事は、堀江、七熊、時田です。よろしくお願い致します。

第1回目のリクレーション部会では、各事業の内容と実施方法について話し合われました。リクレーションの親子遠足、餅搗き大会は、親の会が主催で、運動会、盆踊り大会は椋の木主催です。初めの頃はリクレーション部の役割がわからず少し戸惑いを感じられましたが、橋本先生の説明で皆さん納得して下さりリクレーション部として各事業に取り組むことになりました。

第2回目のリクレーション部会では、1回目の部会内容をより具体化し7月8日の親子遠足の進め方、文化・教養の手芸、料理、陶芸教室等について意見がいろいろ出て和やかな雰囲気でした。



### 【親子遠足に参加して】

親の会が主催で最初のリクレーション事業の親子遠足に初めて参加させていただきました。親子とも畜産センターに行ったことがなく楽しみにしていました。当日は曇り空で3台のバスに分かれて乗って行きました。途中で雨が降り出しましたが、目的地畜産センターに着き、ホールを借りて弁当を食べました。初めて参加して不安でしたが、他の会員さんが声をかけて下さり、参加してよかったと思いました。天気は雨でしたが傘をさしてバラ園やあじさいの花を見に行ったりした会員さんもみえ楽しそうでした。和やかなよい親睦の場になったと思います。



昼食風景 7月8日(土)  
畜産センターエターナウスにて

## 収益事業部

収益事業部としては、現在の会の目標である『生活施設建設』のための資金作りの方向付けが第一の仕事になるかと思えます。

資金作りが中心といってもまだ組織が変わったばかりで、収益事業部としては何をどうしていいのかウロウロの状態ですが、会員皆様お一人お一人の力が大きなパワーとなりますので、よろしくご協力の程お願い致します。

今年度は、今まで以上に親睦を深めながら盛り上がりのある集まりにしていきたいと思っています。また、手芸品・陶芸品等を会員が心を込めて製作し販売することや物資販売をすることを通して、地域の方々に障害者のことを理解して頂く活動でありたいと思っています。

### 《事業の進め方》

(1) 収益事業部では四つの事業に取り組みます。

**手芸班** ----- マット・花ふきん・刺し子の巾着など手芸品の製作と販売

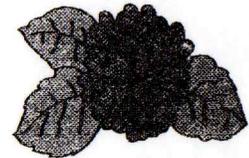
**陶芸班** ----- 今年度に関しては、商品開発の準備期間とします

**料理班** -----

**物資班** ----- 食品等のカタログ販売

上記の事業以外に

**バザー班** ----- 販売方法企画・バザーの派遣



(2) 障害児を抱えての活動はととても大変ですが、出張販売は地域の方々に障害者のことを理解していただくよい機会なので、なんとか昨年の販売先を維持して少しでも多くの方とふれ合うことができればと考えています。

(3) 物資販売の仕事・値札付け・バザーの派遣につきましては、地区別ブロック単位でお願いすることになりました。依頼がありましたときは、よろしくご協力頂きますようお願い致します。

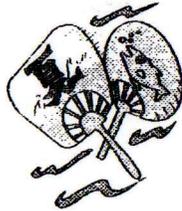
(4) 収益事業の活動へは、会員の皆様に参加して頂きたいと思っていますので、よろしくお願い致します。

## 木曾川作業所バザー

5月28日、木曾川作業所に於いてほのほのまつりがあり、今年も参加させて頂きました。

天気も良かったせいか、大勢の人で賑わっていました。いつも人気のマットは今回もよく売れ、花ふきん・刺し子のコースターなども好評でした。

この日の売上は、39,230円でした。ありがとうございました。



## 【その他のバザーの売上】

4/15.16 日比野バザー ￥50,760  
6/24.25 JA稻沢バザー ￥17,732  
各販売先の皆様ありがとうございました

## 《収益事業部からのお願い》

- (1) ミシンの出来る方が少ないので、困っています。難しい作業ではありませんので、どなたかできそうな方ご連絡下さい。小塚まで ☎ 69-3445  
(ふきんのふち縫い・コースターや袋物のミシンかけ等です。)
- (2) 個人的に手芸品等を作って頂ける方、大歓迎です。8月8日(火)に値札付けを行いますので、それまでに檜の木作業所までご提出下さい。
- (3) 檜の木盆踊りに出す不用品がありましたら、集めておいて下さい。押入や物置等に眠っている家庭用品、雑貨、古着等まだ使える物で提供して頂ける物がありましたらお願い致します。

## 物資販売



昨年からはじめた物資販売も皆様のご協力により、少しずつ定着しつつあるように思います。

今回の夏の物資は、昨年までの「ユニオンサービス」以外に、「味よし」の海藻類も取り入れてみました。特に好評だったのは、喜多方ラーメン・札幌ラーメン・ハイブレンドチーズ・海藻サラダ・長ひじきなどです。

今回の売上は約110万円、収益は約28万円で昨年の夏に比べると2倍の売上がありました。皆様ご協力ありがとうございました。



## 広報・研修事業部

### 広報について

広報は、会活動の案内や、実践の成果又は感想・意見を広く会員の皆さんにお知らせして行くことだと思います。ひとつひとつの願いや大きな目標を語り、手をつなぐ時、広報は情報としての力を発揮出来ると思います。『この子等の幸せを考える親の会』会員さんが本音で語ろう、まとまろう、大きな力をつけよう、という時節柄、意見交換の場としての広報の担う役目は意味深いものだと思います。

広報のすべり出しとしては、編集のまずさや、読みにくさもあると思いますが、事業部の手づくりの味を大事にしたいと思います。そして次第に記事や反響が多くなれば、タイムリーな発行につながると思います。これからの広報をどうかご愛読願ひ、皆様のご意見やご指導、しった激励をよろしく願ひ致します。

### 【 広報の内容 】

#### ○行事・実践について

リクレーション、収益、広報・研修、各事業部の取り組みの案内・報告、それに携わった会員さんからの体験談、意見等

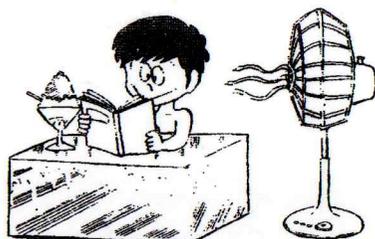
#### ○『この子らの幸せを考える』について

「親の会」各会員さんの今日までの様々な思い出や苦勞・学んだことや、将来に向けての悩みや期待、又は学習会や講演会の内容

#### ○『親の会』として地域へのアピール等

#### ○他の親の会の活動や福祉に関する紹介等

#### ○その他



フムフム、会報誌が出ましたネ!

### 【広報発行への取り組み手順と方法】

⇨テーマ⇨取材⇨編集⇨印刷⇨配送(お手紙)  
記事 (郵送) 読書・感想⇨保存

☆ 事業部会の会員さんのご意見と工夫と手作業を大事にしていく



## 【広報の製作イメージ】

- ・ 会員相互の情報誌であるとともに一般の人への啓蒙誌でもありたいので狭いものでなく広く理解して頂けるものにしていきたい。
- ・ あまりに固いと読むのが嫌になるので、ハプニングやエピソード、イラストを入れて親しみやすいものにしたい。
- ・ 各事業部の活動を写真で紹介していく。
- ・ 会員さんに原稿を依頼していく。字数は原稿用紙半分から1～2枚程度記名または無記名は自由。
- ・ B5判4ページ、年4回(7月、10月、1月、4月)くらい、頑張っていこう
- ・ いつも決まった形式にとどまることなく、デコボコ変化があっても良い
- ・ 会報紙のネーミングは、色々出ました。『いつも希望をもっていますのです』というある会員さんの熱っぽい実感の伝わる発言が胸に響き満場一致。会報誌名については各事業部会等会員の皆さんの了解を得ていく



『希望をもって…』

## 研修について

日頃の会活動や、ハンディキャップを持つ我が子へのかかわり・将来への生活スタイル等、日常の忙しさもあってなかなか整理出来ずにいることが多いと思います。時として、悩みや心配事、期待やアピールしたいことで胸が一杯になることがありますか。会員さん個々の歩みや事情は様々ですが、それぞれの事柄ひとつひとつを大事にして行けるような話し合いがなされるならば、それは互いに学び合うこととして深まって行くことだと思えます。もっとそんな会になっていたらいいなと思えます。

この子等の幸せを考えて、語り合って、将来を作っていくに当たって、どのような研修が必要でしょうか。これまでの経験を整理しながら、ひとりひとりが出来るところから力を発揮して、実り多いものにしていきたいと思えます。

会員の皆さんの意見や情報をお待ちしています。



【研修の内容】

○講演会について

私達が何を知りたいか。

・活発な親の会の方、生活施設に従事している方、施設建設等の資金集めをしているところの人などの意見が出ています。…

○施設見学について

見学先の候補地としては、いずみ福祉園（一宮市）、まどか（東浦町）森孝勝善館（森山区）などがあがっています。

○学習会について

自分達で学び、直接話を聞きに行ったり、見に行ったり、継続していけるものに。

○座談会について

会員相互の関心事、体験談を話し合う。

○その他

